第14号
2016. 12

青梅のにじ

〈発行〉
日本基督教団 隠退教職ホーム　〒198−0052　東京都青梅市長淵2−687
にじのいえ信愛荘　電話：0428−22−2283　FAX：0428−22−2317
運営委員会　須藤　繁　Eメール：nijinoiesinaiso@wish.ocn.ne.jp
振替口座番号 00120−3−358467
加入者名：にじのいえ信愛荘

祈りつつ、終わりなき奉仕

隠退教師　辻　哲子

にじのいえ信愛荘の2階の廊下に、合併以前の「信愛荘」の30周年記念集会（1989年）の集合写真があります。

出席者の多くが、私の夫（辻宣道師）をはじめ帰天されているのではないでしょうか。どの方も走るべき道のりを走り、主の教会に仕えてこられた生涯を、想像することができます。

顧みれば、にじのいえ信愛荘の歴史とは、その設立に、維持に、発展に総力をあげて取り組んできた〈奉仕の歴史〉そのものでありました。創設者たちのエネルギーと熱意は、今想い起こしても驚嘆してしまいます。

特に「にじのいえ」建設に於いては、土地購入の一坪献金から始まり、全国の諸教会及び個人から献金していただきました。

その折に「祈りつつ」働くことと「終わりなき奉仕」が合言葉となり、励ましあい、暖かい支援をし続けてきました。

私は、17年前に隠退し、千葉市稲毛に転居した関係から、「にじのいえ」の運営委員の現地担当として月二度礼拝説教と土曜子ども聖書会の奉仕、そして有志による祈祷会を9年間続けてきました。合併後も時折、にじのいえ信愛荘の礼拝説教に招かれています。その折に有志たちと祈祷会を開き、応接間でひざつきあわせて、み言葉を聴き、各自の受けた恵みを分かちあい、共に祈る中で不思議な力をいただいています。祈り祈られている中で「祈りの奉仕」のわざがあることを覚えました。

「最上のわざ」ホイヴェルスの詩に記された「神は最後にいちばんよい仕事を残してくださる。それは祈りだ。…手は何もできないけれども、最後まで合掌ができる。愛するすべての人のうちに神の恵みを求めるために…。」この祈祷会と毎朝の入荘者の礼拝の祈りは、全国の諸教会、諸事業、働く人々のために神の祝福をいつも求めています。祈りの共同体として、宣教の大きな役割を果たしているのではないでしょうか。

さて、主に従う献身者の生活は、予想以上に厳しいのです。しかし、老後をしかるべき場所で過ごされているご様子を見る時、主なる神はかならず顧みてくださることを実感します。

20余年前、静岡草深教会の新会堂建築のことを、何処でお知りになったのか分りませんが、入荘者のお一人から誰よりも先に献金が送られてきました。かなりの額です。私たちは励まされました。そして隠退したらこのような生き方をしたいものだと話しあいました。

思えば献身者ホームにかかわった先達者たち、教師も信徒も自己充足的な信仰ではないのです。自分の教会、自分の生涯が充たされればよいと言うのではなく、各自に与えられた賜物を惜しみなく差し出しました。

その在り方が今日も継承されています。そのことを深く感謝します。更に課題の多い今後も「祈りつつ」「終わりなき奉仕」の輪が、しっかりと広まってまいりますように。

クリスマス特集

クリスマスの光と闇

隠退教師
武田　英夫

マタイによる福音書 2章16～18節

クリスマスに読まれる聖句の殆どが喜びに満ちた明るい物語であるのに対し、このマタイによる福音書2章16～18節は深い悲しみと嘆きとを伝えています。すなわち、18節にはエレミヤ書31章15節による預言としてこう記されています。「ラマで声が聞こえた。激しく嘆き悲しむ声だ。ラケルは子どもたちのことで泣き、慰めてもらおうともしない、子どもたちがもういないから。」ここがクリスマスに読まれることはほとんどないように思います。

これは、創世記35章16～20節にあるイスラエルの祖となったヤコブの妻ラケルが、子どもを失った母親としての悲しみを記したものです。その時ラケルは死んで墓の中にいる身なのですが、バビロン捕囚によって他国に捕虜として連れて行かれる悲しみの人々が、ラマにあるそのラケルの墓の前を通った時に、嘆き悲しんだような声が聞こえたというのです。それをエレミヤの、主イエスの誕生に伴う預言であるとして、マタイ福音書でも引用しているのです。

一体、主イエスのお誕生に際しての悲劇とは何だったのでしょうか。イエスのお生まれになった頃のユダヤの王ヘロデは、自分の権力欲のためには、誰も彼も問わずに犠牲にすることもいとわない暴君でありました。現代の国でも、自分の親族や側近中の側近をも粛清するという悲しいニュースを聞きますが、暴虐の王ヘロデは、自分の妻や身内の者たちを多数殺したほどの残忍さを持っていたのですから、ユダヤに新しい王が生まれるという話を聞いて、ためらうことなく、何としてもその幼児を亡き者にしようと考えたのでした。

そのため、主イエスを拝むために、はるばる東の国から来た学者たちに、「居場所がわかったら知らせてくれ、わたしも行って拝もう」と嘘を言ったのです。

しかし、学者たちは王に報告せずに国に帰ってしまったので、ヘロデは怒って、ベツレヘム一帯の2歳以下の男児を皆殺しにせよと命じたのです。主イエスとその両親は、ヘロデの手が届かないエジプトに避難をしていましたから無事でしたが、東の国から来た学者たち、羊飼いたちや天の大軍がこぞって主イエスのお誕生を祝ったその時に、一方でこの様な悲惨なでき事があったことは忘れてはならないことです。

元気に生まれて育っていた幼児たちを、突然、有無を言わせず殺された家庭の悲しみは想像を絶します。それだけでなく、主イエスも生まれた直後からその命を狙われたのです。その時から、主イエスは十字架に掛けられて殺されるまでの苦難の生涯を過ごされたのでした。

羊飼いへのお告げ　渡辺禎雄版画

しかし、主イエスはそのような暗黒の世を救うためにこそ、この世に光としておいでくださったのです。洗礼者ヨハネの父ザカリアも、イザヤ書9章を用いて、主イエスについてこう預言しています。「暗闇と死の陰に座している者たちを照らし、我らの歩みを平和の道に導く。」（ルカ1・79）

私たちは、ヘロデのことを残虐非道な者と決めつけるだけで終わってはなりません。確かにヘロデはひどい人ですが、私たちもヘロデと共通する罪深さを負っている者です。今私たちはどんな時にも、主イエスを裏切らないと心に誓っているかもしれません。しかし「例え主と共に死ぬことになろうとも、あなたを知らないなどとは決して申しません」と誓ったペトロが主イエスを否定したようにならない保証はありません。そのような私たちのために、主イエスはご自分を十字架の上に犠牲としてお捧げくださいました。主イエスがご自分の体を、この暗い世を救うために光として私たちのところに来てくださったことに、心から感謝したいと思います。

クリスマスの思い出

タウソン先生

宮本　惠

「わぁー　きれい！」そこには、およそ20枚くらいのカードが並べられていた。―「ミナサン　オスキナノヲ　イチマイズツ　サシアゲマス　ドーゾ」―　順番が来て私もお気に入りを手にした。そこには、旅をする博士たちのシルエットと大きく輝く星が、濃いブルーを背景に銀色で描かれていた。その夜は家庭集会のクリスマス祝会で、大人も子どもも一緒に集まっていた。紙芝居の〝もう一人の博士〟―アルタバン物語―を子どもが交替で読み、牧師先生のお話があった。

当時、私達家族は縁故疎開のため、大分県の山間部安心院町に住んでいた。すでに敗戦後であったが引き続きその町に居た。

両親は教会生活を大切に考えていたので、海岸の日出町の教会から、吉良初見先生が月に一度家庭集会のために、泊りがけで通ってくださっていた。九州教区大分地区で、当時、応援伝道をなさっていたのがタウソン先生で、女性の宣教師であった。

お泊りの夜の、家の中のお供は何故か私であった。先生と手をつないで暗い廊下を歩いていると、何とも言えない柔らかな香りが漂っていて、片言の日本語の会話には優しさと不思議な安心感があった。年端も行かない子どもの私であったが、あの時先生から受けた〈安らぎ〉こそ、キリスト者に与えられる特権ではないかと感じている。

〈心を騒がせるな、神を信じなさい。そして、わたしをも信じなさい〉（ヨハネ福音書14・1）との主イエスのみことばに生かされたいと、今もあの時のことを折々に思う。

敗戦後の学制改革で、六・三制が発足する一年前、最後の国民学校一年生であった私達世代の、教科書や学用品のすべては悲惨窮まるもので、質感も色彩感も全く乏しいものであった。だから祝会でいただいたカードは私の宝物となった。が同時に、タウソン先生から贈られた、手渡すことのできない〈心の宝物〉、それを受け継ぐ者として、斉えられてゆきたいと願う日々である。

（在荘者）

クリスマスの思い出

小さな贈り物

三浦恵美子

私のささやかな信仰の歩みを振り返る時、幼い日々の出来事が時に思い返されます。

私の育った家庭はキリスト教ではありませんでした。厳格な祖父の下、家の嫁であった母はいろいろ気苦労も多かったようです。嫁ぎ先の娘を案じてか、母の実家から毎月、母の元へ『婦人の友』誌が送り届けられていました。母は本が届くのをとても楽しみにしておりました。それは、母にとって息が詰まりそうな家の中にあって、心に差し込むひとすじの光・自由な外の世界との出会い・知的探求心等への小さな窓と扉であったように思います。

そのような母の姿を思い返しながら、クリスマスの思い出を手繰り寄せる時、私は幼い日のクリスマスの朝の出来事を思い出します。私の枕元に置いてあった小さな包み。その中には柔らかなきれいな彩色のモールの束が包まれていて、そっと包みを開いた時、とても嬉しかったこと、その手触りは今も残る思い出です。そして、夜には大きなケーキが届き、これらは母からの精一杯のクリスマスプレゼントでした。

中学に入り、私は仙台市内にあるミッションスクールの宮城学院で学ぶことになりました。若き日に心に刻まれた日々の礼拝と、み言葉。そして、クリスマス礼拝に向けて全学年合同で行う合唱『ハレルヤコーラス』は、パート毎の練習が幾日も続きますが、一人ひとりが責任をもって歌い、声と心を合わせ歌いあげるクリスマス礼拝の讃美は、深く心に響くものでした。

若い日に神さまが備えてくださった恵みの道、牧師であった三浦と共に歩んだ道、多くの振り返りの中に神さまの確かな導きを覚えることができます。

クリスマスを前にして、忙しさに心奪われることなく静まって、救い主イエス様にお会いできるよう歩んでみたいと願っております。

栄光　在主

（生活主任）

Essay

植物物語〈荘の庭から〉

横山　利江

秋の虫達の大合唱は終演を迎え、敷地内の植物たちもひっそりと季節の衣替えを始めました。長い花茎を光の差し込む方向へ伸ばし、咲き誇っていた秋明菊も、今は子房の部分が丸い実のようについて、なお花茎はまっすぐに立ち、葉は黄色に染まりました。

入荘一年生の私は、荘の庭の植物たちから季節毎に喜び、感動を沢山もらいながら過ごさせていただきました。庭を廻りながら、この木はいつごろ誰が植えたのかな、この花は？とこの荘で過ごされた多くの方々に思いを馳せました。

今、共に過ごしている一人の姉妹に「お花はずっと好きでしたか？」と尋ねましたら「ええ、教会の庭作りをしたり、会堂の花を生けていましたから」とのお返事でした。荘内に姉妹が種をまき球根を植え、咲かせた花は数知れません。

荘の庭から摘んだ日々草、トレニア、コスモス、秋明菊、野いばらの実を束にして、ガラスのコップにさして自室に飾った時の幸せ感は例えようもありません。植物は一年を通してその姿を見つめて行くと、沢山のことに気付かされて、神々しい感動さえ与えられます。一年を振り返り心に残った花を記してみます。

○クリスマスローズ

何故か、以前から気になる花でした。食堂横の花壇、中庭に冬の間咲き続けます。可憐にうつむいてシックな色合い、と密やかな印象でしたが、その葉に触れてみたときに「あなた何者？」という疑問が！ガサガサとした触感、葉縁に細かく鋭い切れ込みが入り、武装していると感じるほどでした。調べたところ、学名「ヘレボレス」ギリシャ語で（殺す）と（食べ物）の意が合わさっていてキンポウゲ科の毒草。特に根茎にトリカブト並みの毒が。英名「レンテンローズ」レントの頃に咲くことからの名の由来と知りました。

イエス様のご受難の季節に上を向いては咲けなかったのですね！愛しく思える花になりました。

○ユリノキ（百合の木）の花

荘の駐車場の奥西の角に立つ大木です。別名「半纏（はんてん）の木」「チューリップツリー」成長すれば20メートルに及ぶとのこと、今剪定されて7メートルほどになっています。

その花は5月～6月に咲きチューリップにそっくりで花の外側は緑黄色、下部に橙色がうすく入り、花壇の花とは違う美しさを感じます。顔を近付け見とれてしまい、木に咲く花の誇り、自信さえも感じてしまいました。11月既に来年の花芽はしっかりついているのを目撃しました。松かさのような集合果が熟し、風に飛ばされてユリノキは命を繋いでゆきます。

○トレニア（夏すみれ）

食堂の各テーブルには常に小さな花器に、庭から摘まれた可憐な花が生けられています。春から秋まで食卓のヒロインはトレニアでした。花弁が口唇状で赤、ピンク、紫色の口紅をつけた可愛い口を一杯に広げ、毎朝の礼拝で、私達と共に讃美歌を歌っていると思えるような花の形です。よく見つめてやってください。次々に花を咲かせ、種がこぼれて、また花をつけ、朝の食卓であなたに出会い、どれほど一日が明るくなったことでしょう。姉妹なるトレニアありがとう！

創世記によれば神様は第三の日に「地は草を芽生えさせよ。種を持つ草と、それぞれの種を持つ実をつける果樹を、地に芽生えさせよ」、第六の日「御自分にかたどって人を創造された。」と記されています。

植物も人間も造られしもの、共に創り主である神様を讃えましょう。植物は置かれた場所でしか生きることができません。しかし、神は沢山の生きる知恵と賜物を下さいました。

アッシジの聖フランシスコの信仰に1センチほど近付けたでしょうか。ハレルヤ　（在荘者）

にじのいえ信愛荘 訪問の恵みを与えられて

飯澤　弘子

全国の方々のお祈りと支えの輪が広がることを願い、全国教会婦人会連合では、毎年秋に「にじのいえ信愛荘」訪問を企画、参加者を募ります。今年は去る9月13日、15教会から28名と3名の教職の申込みがあり、そのほか委員等が加わって、外部から46名が荘を訪れました。

毎年の訪問ですが、入荘者の中には、お部屋でお休みの方、デイサービス、ショートステイ中のためご欠席や、他の施設に移られた方もあります。また一方で、この一年に入られた新しい方々のお顔も見られます。

「ここでは皆、神の家族です」とおっしゃる言葉が表しているように、年を重ね、健康に問題を抱える中でも、信仰による平安な日々を送っておられることを感じます。そして、その方々を支えて献身的に働いておられるスタッフのご出席のもと、総勢62名で午後のひととき懇親会を開きました。感謝の一日でした。

（にじのいえ信愛荘運営委員
全国教会婦人会連合にじのいえ信愛荘協力委員会委員長）

訪問記

岩堀　廸子

神奈川教会からは6名参加いたしました。河辺駅改札口には、10時集合の訪問する方々で溢れていました。当日は、あいにくの雨、庭のお掃除は思うようにできませんでしたので、館内を皆で拭き掃除をいたしました。

12時より各自で昼食をとり、その後1時から懇親会となりました。大きな丸テーブルには、いろいろな教会の方々ともお話しできるように、同じ誕生月同士で座りました。お二人の先生方とも一緒のテーブルになり、美味しいお菓子とお茶をいただきながら話が弾みました。

各テーブルの隠退牧師方お一人おひとりのスピーチはとても楽しく、笑いの中に心和む思いで聞かせていただきました。同じテーブルでお隣になった隠退牧師夫人は、荘内での一日の生活を詳しく楽しそうにお話しくださいました。目が覚めると朝一番に窓を開け、澄んだ爽やかな空気を吸ってから一日が始まるそうです。何と明るいゆっくりした朝の訪れでしょう。2階からバタバタと駆け下りて行く私の朝と大分違っていて、うらやましく思いながらお話しをうかがいました。お話しも弾み、お疲れにならないかと心配もしましたが、アッと言う間に2時間が過ぎてしまいました。

奉仕部のミニバザーでは、いつもの美味しいフリーズドライの野菜スープをたくさん買って帰りました。自宅からは少し遠いですが、一年に一回の訪問です。いつもと違った時間の流れの席に参加できたことは、とても嬉しく思っています。にじのいえ信愛荘協力委員の方々のご奉仕に感謝いたします。楽しい懇親会でした。（神奈川教会員）

中島美津子

私は神奈川教会員として奉仕をするとともに、「にじのいえ信愛荘」で生活されていらっしゃる方々との交流を、とても大切に思っています。

個人的にも、時々夫と共に訪問させていただいております。私は、荘でご生活の伊藤地塩牧師より、東京の広尾教会（豊分教会）にて洗礼を授けていただきました。当時を思い出しながら、先生との楽しい懇談はいつも和やかなひと時で、嬉しく思っています。

今後も多くの方が訪問して「にじのいえ信愛荘」を想っていただきたいと願っています。

（神奈川教会員）

近況報告

荘長　深山　祐

【年齢を重ねるにつれて】

自立を条件に入居された荘員の方々が、歳を重ねられるに従って、今まで出来たことがご無理になられ、人の手を借りなければならなくなります。特養や老健施設、あるいはグループ・ホームであれば、それなりのお世話が出来るのですが、荘での限られた人数のスタッフでは、次第にお世話をすることが困難になりつつあります。

昨年から今年にかけて、他の施設にお移りになられた方々がおられます。退荘された方々についてごく短く、近況をご報告します。

・飛田悦子師…昨年10月末以来、甥御さんの近くの老健施設・晴山苑（千葉市花見川区）にご入所。今年の5月以降、私が出向き、月一回礼拝・聖餐を守っております。お元気です。

・吉田トシ師…東京湾を一望できるキリスト教の特養「望みの門富士見の里」（木下宣世理事富津市）に7月に移られ、チャプレン南純先生（日本キリスト教会房総君津教会前牧師）のご奉仕により、毎週、礼拝（火曜）と讃美歌サークル（木曜）に元気に出席されておられます。移られて以来、二度お訪ねして聖餐を守りました。お元気です。

・千葉壽賀子さん…10月、お身内の小林牧子師（東長崎ウエスレー教会）のもとに移られ、安心です。

・石坂幸雄師…昨春、竣工したばかりの特養、青梅白寿苑にご入居されました。特養には、中々、入居が困難な状況ですが、ショートステイを繰り返して、空きを待っておられる荘員の方々もおられます。他の職員の方々もお見舞いに行かれますが、私も週一の割合でお訪ねし、お部屋で、ショートステイ中の荘員さんと礼拝・聖餐を守ってきております。

【武田英夫先生・陽子夫人のご奉仕を有難うございました】

横浜から二時間半かけて荘に足を運ばれ、第二主日礼拝の説教・奏楽奉仕をしてくださった武田英夫牧師・陽子夫人は、ご親族の介護のため、9月のご奉仕を最後に退かれました。丸二年間のお二人のご奉仕に、心から感謝申し上げます。

◆自己紹介

執りなしの祈りに生かされて

柳沼政一
齊子

執りなしの祈りに生かされて、憐れみと恵みに富み給う主に感謝いたします。

神さまのお恵みと、主に在る方々の執りなしのお祈りにより「にじのいえ信愛荘」に入荘のお許しをいただき、4月27日、皆々さまの温かい笑顔に迎えられました。唯々、よろこび、感謝と共に安堵いたしました。

福島県会津の地、川桁伝道所での27年間は、多くの諸教会の方々のご奉仕に支えられ、よきお交わりと、主にあるよろこびをたくさんいただきました。

「にじのいえ信愛荘」では、自然に恵まれ、朝夕の賛美と、お祈りによき学びを与えられ、主の憐れみと御愛が身にしみてまいります。豊かな食卓にも充分に満たされ、生かされている幸福を、何と感謝したらよろしいのでしょう。ご労をおとりくださる方々に、心から「ありがとうございます」と、申し上げるほかはないのでございます。

主に在りて、感謝いたします。

運営委員会近況報告

鈴木　功男

２０１６年後半の近況をご報告します。

一、職員の人手不足は、ボランティアの皆様のご協力によってしのいでおりますが、別記の募集要項をご覧いただいて、是非、ご紹介くださいますようお願いいたします。

二、介護度が進むことへの対応として、関係病院・諸施設との連携を密にしております。吉田トシ先生は介護度５になるまで在荘されましたが、この７月「望みの門」にお移ししました。荘長、スタッフの訪問を重ねておりますが、状況の安定に安堵しております。

三、東京都と青梅市の指導により規定に合うように「有料老人ホーム申請」の準備をしました。

四、９月に愛知老人ホーム「まきば」の施設長鈴木卓也氏をお招きして、ホームのあり方につき勉強会をしました。

（にじのいえ信愛荘運営委員会委員長）

にじのいえ信愛荘 チャリティコンサート報告

至福の時

佐々木敏明

２０１６年10月22日（土）、青山学院大学ガウチャー記念礼拝堂で、チャリティーコンサートが開催された。青梅から数名の入荘者や職員も来られ、大勢の来場者の中には、車椅子の方もお見かけした。

今年は桜美林大学クワイアー（現役学生混声合唱団）が初登場。

同大学は、東京都町田市にあり、北京で貧困家庭の女子教育に献身された清水安三師が１９２１年に創立した崇貞平民女子工読学校を原点としている。

前半は讃美歌集（日本語歌唱）、後半はドイツバロック音楽（独語歌唱）、英国国教会聖歌集（英語歌唱）と多彩なプログラム。

誠実な猛練習の成果が明白な、清澄な若々しい歌声が、聴衆を和ませ感激させた。

数人の女性から、「感激の余り涙が頬を流れた」との感想を聞かされた。

米国に一年間留学して研鑽した、目が不自由な女子学生の独唱（大バッハ、カンタータからのアリア）に、聴衆は深く感動した。

指揮者の横山正子先生の温かい人柄と指導力、オルガン担当４年生の永井幸太さんの演奏力が、聴衆から高く評価され、賞賛された。

アンコールにかえて、出演者と聴衆５００名以上の大合唱、讃美歌21・５２２「キリストにはかえられません」は圧巻だった。そこには、至福の礼拝堂に、舞い降りた天使が祝福していた。

（募金小委員会委員）

維持献金

クリスマス献金のお願い

「にじのいえ信愛荘」を今後も継続的に維持、運営していくために一人でも多くの皆さまからの維持献金のご協力をお願いしています。専用の献金袋（個人）もありますのでご利用の上、各教会でまとめてご送金ください。また、クリスマス献金もなにとぞご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

振替口座番号
００１２０-３-３５８４６７
振替用紙／専用献金袋は
にじのいえ信愛荘事務局まで
TEL　０４２８（22）２２８３

住込み職員募集

○勤務　週３日～５日
○条件　キリスト者女性　単身
　要運転免許
○仕事内容　入荘者の生活全般のお世話
○待遇　当施設規定による
　食事つき（委細面談）
○年齢　65歳以上も可
問合せ　詳細は当施設事務局まで
TEL　０４２８（22）２２８３

荘日記

施設長　松村　誠一

●2016年5月
2日(月)お茶会(10名)
10日(火)スタッフ会
17日(火)会計監査(運営委員会5名)
防火訓練(地震対策・20名参加)
19日(木)井上医院往診
21日(土)照沼まりえ姉ボランティアからパート勤務へ(週2日2泊)
25日(水)運営委員会
30日(月)相談会

●2016年6月
4日(土)抹茶会(11名)
6日(月)お茶会(11名)
7日(火)スタッフ会
8日(水)黒田愛子師召天(献体)
9日(木)めぐみ幼稚園来訪
12日(日)河辺伝道所との花の日合同礼拝(36名)
13日(月)北島歯科往診
21日(火)聖ヶ丘教会来訪(10名)
23日(木)井上医院往診
24日(金)誕生会・相談会
28日(火)相愛教会来訪(7名)

●2016年7月
4日(月)お茶会(11名)
11日(月)誕生会
12日(火)スタッフ会
吉田トシ師退荘(望みの門富士見の里入所)
13日(水)水道メーター取り換え工事
21日(木)井上医院往診
25日(月)相談会

●2016年8月
3日(水)都福祉保健局訪問(有料老人ホーム申請関連)
9日(火)スタッフ会
18日(木)井上医院往診
22日(月)原町田教会ジュニア聖歌隊来訪(10名)
台風でA棟雨漏り被害
25日(木)運営委員会
26日(金)フルートを聴く会
29日(月)誕生会・相談会

●2016年9月
5日(月)お茶会(17名)
7日(水)石坂幸雄師退荘(白寿苑入所)
13日(火)全国教会婦人会連合来訪(46名)
15日(木)スタッフ会
井上医院往診
19日(月)「まきば」施設長を囲み将来問題検討会実施
20日(火)めぐみ幼稚園敬老の日来訪
26日(月)誕生会・相談会
27日(火)千葉壽賀子姉退荘(ご家族の下へ)

●2016年10月
3日(月)お茶会(10名)
4日(火)スタッフ会
7日(金)西東京教区婦人委員会来訪(8名)
10日(月)井草教会来訪(12名)
16日(日)墓前礼拝(6名)
20日(木)井上医院往診
22日(土)チャリティーコンサート(荘員2名)
27日(木)汚水処理設備工事完成
誘導灯設備工事発注
29日(土)青梅幼稚園園児来訪(21名)
31日(月)誕生会・相談会
クリスマス委員会

なお、前回までの荘日記で紹介した土・日曜ボランティアの方々以外に、砂田巳智子委員、尾野明子姉、高橋玉代姉、足立直子姉にもご奉仕いただいています。

あとがき

第14号を全国の読者の皆さまにお届けします。ご執筆にご協力くださいました皆さまに、心からお礼を申し上げます。

アドベントを迎えています。

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネ福音書3・16)、特にこの後半のみ言葉に、いつも圧倒されます。この大いなる神の愛が示されるクリスマスを感謝しつつ、まだ知らない方々にもお伝えしていきたいです。

青梅と言えば、多摩丘陵に連なる豊かな緑に恵まれたところです。「青梅のにじ」第3号では、ご在荘の嶺　尚先生が「青梅散歩」で、溢れるばかりの美しい自然と数々の名所をご紹介くださいましたが、今回第14号では、身近な荘の庭に目を向けられた横山利江さんが、心楽しく「植物物語」をご執筆です。

(成松三千子)

編集委員会
長・成松三千子(柿ノ木坂教会)
石井泰子(小松川教会)
岸　俊彦師(経堂北教会)
黒沢咲子(下谷教会)
阪口和美(神奈川教会)